

課題番号5

基本方針：Ⅱ		課題名：需要期計画出荷によるキク産地のブランド力強化	
対象：JAならけん葛城花卉出荷組合		計画期間：H30～R2	
		事務所名：中部農林振興事務所	
普及指導事項	活動内容	活動成果（計画当初→R1年度末）	
①最需要期の安定生産・出荷体制整備	作付調査・生育巡回 市場への情報提供・検討会 夏季高温対策現地展示圃 小ギク県育成品種の導入	輪ギク(黄)出荷量 5.4万本 → 8.4万本 小ギク出荷量 12万本 → 13.1万本	
②特色のあるキクの安定生産・出荷体制整備	作付調査・市場調査 生育巡回 市場への情報提供 検討会 調査圃場設置・現地試作	二輪ギク出荷量 16.9万本 → 12.5万本 ミスギク出荷量 6.5万本 → 4.7万本 マイクロマム出荷量 1.9万本 → 12.0万本	

総合評価（コメント）

A：4名

- 産地維持に向けた取組みで、主力や特色のあるキクの導入の取組みで評価できるが、新規就農者の確保も重要であり、問題である。
- 出荷組合が自ら販売戦略を構築したうえで決定した課題であり、達成に向け強力に進めて頂きたい。生産者の高齢化が進む中、経営継承等の課題についても、今後仕掛けて頂く必要があるのではないかと思う。
- 消費者の好みの変化を敏感に感じ取り、新しい品種の導入に取り組んでいるのは、大変良いことである。
- 普及指導活動はおおむね適切である。

B：2名

- この課題内ではしっかり指導しておられることがわかります。ただ、大きな視野でみて、葛城の産地の将来が危惧されます。後継者獲得、地域ぐるみでのブランド化推進（直接の販売につながらなくても）のために地元自治体の観光広報部門との連携などを活発化させてほしいです。また、「吉野の桜、平群のバラ、葛城の菊、宇陀のダリア」といったフレーズで、「花の県・奈良」の協議会でも作っていただけるぐらいのことを期待し、これからへの期待の大きさからBとしました。
- 残された課題で明示されているように、生産数量、販売金額の積み上げが課題。また、根本的解決は難しくても、高齢化の課題には違ったアプローチも検討すべきか。

普及指導計画への反映状況等

■産地規模の維持・拡大

新規生産者の確保のため、葛城市・JA・キク生産者と検討会を開催し、その対策を検討します。葛城市のキク生産者を増やすことに対する関係者の意識醸成を行い、キク生産者・JA・市・県で役割分担を明確化することで、新規生産者の確保・育成を目指します。  
高齢生産者が営農を継続できるよう労働時間の大半を占める選花作業について、産地内への共同選花機の導入の検討を行うことで、「軽作業化」を目指します。

■ブランド強化対策

産地内の輪ギク・小ギク・二輪ギク・ミスギク・マイクロマムの適切な作付け割合の検討、販売方法の検討を行います。

